

経営者への活きた言葉

見えないものを見ようとする努力が大切 宮脇 哲(植物生態学者)

1. 私は潜在自然植生という方法に従って、その土地本来の森林に近い樹種を組み合わせた木々を植える活動を、40年以上にわたって行ってきました。日本の多くの地域で、本来の森林はシイ、タブ、カシ類といった常緑広葉樹を主とした照葉樹林が中心でした。これらは深根性直根性といった特徴があり、自然災害でも倒れにくい。一方、現在の多くの森林は、土地本来の木々ではありません。人間の管理が必要です。
2. 本物は大器晩成ですが、あらゆる困難でも生き延びる。ニセモノは見た目はきれいですぐ育つのですが、ちょっとしたことでダメになりやすい。もちろん木を植えることにはさまざまな目的があります。その地域にどんな自然が育つ潜在能力があるのかを知るためには、「現場、現場、現場」です。机の前で自然を知ることはできません。
3. 潜在自然植生という考え方は恩師チュクセン教授に学んだものです。「若い者には、二つの種類がある。一つは見えるものしか見ようしない者。彼らは計算機で遊ばせておけばいい。もう一つは見えないものを見ようと努力するタイプ。君はこのタイプだから、現場に出て一生懸命学ばなさい」と言われたのを、今でも覚えています。

(参考:「週刊東洋経済」2012年2月18日号)

経営者のための理念・哲学

どんな環境でも悠々自適

1. 「君子はその位に素^ソして行い、その外^{ホカ}を願わず」。孔子の孫、子思^{シシ}が著した「中庸^{チュウヨウ}」にある言葉である。
立派な人物は自己に与えられた環境の中で、運命を呪ったり不平不満を言ったりせず、精一杯の努力をし、それ以外のことは考えない、ということである。
2. さらに本文は続く。「富貴^{フウキ}に素しては富貴^{フウキ}に行い、貧賤^{ヒンセン}に素して貧賤^{ヒンセン}に行い、夷狄^{イテキ}に素しては夷狄^{イテキ}に行い、患難^{カンナン}に素しては患難^{カンナン}に行う。君子入^イるとして自得せざる無し」。
裕福で地位が高い時も、貧しくて地位が低い時も、辺ぴな地にいる時も、苦難^マの真^マっ只^{タダ}中^{ナカ}にある時も、おごらず、へこたらず、その立場にある者として最高最善の努力をする。
君子はどんな環境にいても悠々自適である、と「中庸」は教える。

(参考:「致知」:2012年5月号)